

～住まう・想いを寄せる～

与謝野町に住まう人
与謝野町に想いを寄せる人
職員ワーキングチームが、みなさんの心に届く言葉や想いを引き出し、綴る「よさの想い人」を今号から掲載します。

Q 4代続く老舗事業所として大事にされてきたことは？

仕事を楽しくしているところでしょうか。父や祖父が仕事を楽しくしている姿を見てきました。「儲からない」「こんな仕事はダメだ」と言われているところは継がれてないことが多いのではないかなと思います。大学進学時には、まだ将来について何も考えていませんでしたが、その頃に初めて真面目に家業をどうするのかと聞かれました。「継ぐ」というのならそのつもりで準備をする」と。自身自身気になってきたことを、きちんと聞いてくれたことがずつと心に残っています。改めて家業を継ぐと決意したときですね。今も変わらない気持ちで、今を楽しんでいます。

Q 今の世代の役割とは？伝統を次世代につなげるにはどうするべきだと思いますか？

実際に父からつながってきた、共通していることは機織って布をつくることですが、父も祖父も創業者もそれぞれしてきたことは違うんですね。どんな



渡邊 正輝 (若屋在住) PROFILE
・株式会社ワタマサ専務
大正7年創業の4代目。仕事ではスーツではなく、着物を着ることにより得られる感覚を大切にされている。

ん攻めている。守っているという感覚はなくなつて。僕らの世代は今の世代のために、そしてうまくいけば次の世代、社員へも継いでいけるようにしたいと思っています。前と同じことを受け継ぐということではないですね。

Q 仕事で楽しかった瞬間は？

父を納得させたこと。結果です。うね。うちがおそらく丹後の機屋で初めて京都市内での単独展示会をしました。「経費使ったが客が来るのか」とも言われましたが、開催までに努力をし成功させたことです。

Q 辛いところはありますか？

楽しいですが、やはり辛いこともあります。楽しくなければなるほど、手広くなるし仕事は増えるし、それを乗り越えること

Q 若屋に住んでいて良かったなと思うことは何ですか？

いい人たちがいることです。他の地域に住んだことがないので分からないですが、こちらに帰ってきたときは生意気だったので、よく叱られました(笑)。いい先輩ばかりで、面倒もよくみてくれて、人間としても成長させてもらえました。

Q 将来の与謝野町に求めるものは？

若い人目線ですかね。教育もですし、若い人が住みたいと思えることが大切かと。自分達が住みやすいと思える町にしないといけないかなと思います。

Q 地域活動で感じたことを教えてください。

仕事ができる人は、何でもできるんだと気付きました。先輩を見ていて「自分も地域活動をして、仕事ができるんじゃないか」と思うようになり、今いろいろしている最中です。

Q 若手職員に期待すること

内容にもよって難しいこともあるかもしれませんが、町職員としての立場や町の仕事など、割り切らずに、与謝野町に関係する「人」として、一緒に想いを共有し、つながれたらと思います。

THE YOSANO FUTURE PRESS

与謝野みらい新聞

第三号

与謝野みらい新聞
2017年 5月25日 発行
発行所 ・与謝野町役場
編集 ・企画財政課
・総合計画策定委員会
ワーキングチーム

- 1 想いを集める取り組み
- 2,3 わたしたちの想い
- 4 よさの想い人
職員リレーコラム
4コマ漫画



街角インタビュー開始

汗ばむほどの快晴となった5月14日(日)、野田川フォレストパークと阿蘇シーサイドパークで住民の「声」をお聴きするために、総合計画策定ワーキングチームの与謝野町職員が飛び出しました。

与謝野町では、まちの将来像等を示す「第2次与謝野町総合計画」の策定を「みんなでつくる」「みらい志向でつくる」「みえるまちをつくる」をコンセプトに、住民の皆さんと職員とで地域の未来を描くこととしていきます。その第一弾として、皆さんの声を直接聞かせていただくインタビューを行いました。

野田川フォレストパーク

ローラー滑り台が人気の野田川フォレストパークに町外から親子で来られていた男性は「子育てに力を入れてくれるところがいい。子育て世代にやさしいまちづくりを！」とエールをいただきました。その他にも、大江山運動公園や図書館、体育館な



阿蘇シーサイドパーク

グラウンドゴルフを楽しむ地域の皆さんで賑わう阿蘇シーサイドパークでは、町内に住む男性が「町内外関係なく、いろんな



みなさんの想いを集める取り組みがスタート



住民参画

職員参画

総合計画①



「みんなでつくる」を考える

与謝野町第2次総合計画の策定方針のひとつである「みんなでつくる」とはどういうことだと思えますか？

与謝野町に暮らす住民一人ひとりの営みが集まってできている町、それが私たちの暮らしているこの与謝野町です。皆さん一人ひとりが主人公となり、この与謝野町を動かしているのです。「○○な町に暮らしたい」、「○○できる町にしたい」、「だから○○しよう」、「○○したら○○できる」こんな風に、幸せを願い、豊かさを求め、より良い暮らしを望み、子どもたち、孫たち、そしてまだ見ぬ未来の世代につなぎたいという想いがまちづくりの原動力になります。だからこそ、与謝野町に暮らす私たちみんなで総合計画をつくり、みんなの手でまちづくりを進めていくこと。その一歩をみんなと一緒に踏み出しませんか？

総合計画4コマ漫画
よさの まちこ episode.2

あなたは 与謝野愛は 何ですか？

総合計画ワーキングメンバーリレーコラム①

総合計画策定ワーキングチーム
松井 陽一 (住民環境課)

今、与謝野町では、総合計画を作るために、若手職員が中心となり、皆さんから意見を伺う準備をしています。「総合計画」という言葉に行政的なイメージがあり、皆さんの中にはそれだけで拒否的な反応をされる方がいるかもしれません。しかし簡単に言えば、与謝野町を将来どんな町にするのかが書かれた計画です。今までは行政で大部分の総合計画を作ってきましたが、やはり与謝野町の将来を決めるには、そこに住む人か

みんなでつくる総合計画

まちづくりに対する皆さんの想いを集め、未来を語り合う場づくりを企画しています。○○な町にしていきたい！○○をやりたい！など、その想いを「未来の与謝野町」につなげていきませんか？



わたしたちの想い

与謝野町に暮らす町民の皆さんの想いを共有し、未来へ届ける、未来へつなぐ。
そんな大きな決意を胸に、皆さんと一緒にまちづくりを進める職員の想いとは・・・

わたしが思う与謝野町の魅力

- ①町民同士、町民と職員との距離感がすごく近いところ。
- ②春夏秋冬それぞれの色をはっきりと感じられるところ。
- ③生きていく上で大切な素材がしっかりあるところ。
- ④人との繋がりが多くあり、共同で生活する意識が根付いているところ。
- ⑤与謝野町の時間も人も和やかで穏やかなところ。
- ⑥外部からの移住者を快く仲間として受け入れてくれるおらかな心をもった町民性。
- ⑦出身地ではないので、良い意味で与謝野町の「どうにでもなる“可能性”」があること。
- ⑧アイデンティティが強く、仲間意識があり、来るもの拒まず温かく受け入れてくれるところ。

- ▶ 防災安全課 小西勝歩
- ▶ 農林課 荒木拓哉
- ▶ 総務課 田村尊彦
- ▶ 住民環境課 鎌田あいさ
- ▶ 企画財政課 田中皓詞
- ▶ 学校教育課 奥野真敏
- ▶ 企画財政課 池田雅広
- ▶ 商工振興課 高橋 愛

わたしが思う職責、やりがいを感じた瞬間

- ①「地域を誇りに思ってもらう」こと、「やる気起こし」をすること。
- ②地域の方々と一緒に汗をかき、一から作り上げた事業にやりがいを感じた。
- ③与謝野町に住む方々、関わっている方々にとって住みよい町になるように考え、取り組むこと。
- ④一人の地域人として認めていただくための平日頃からの行動が大切。
- ⑤同じ目線になり、傾聴すること。誠心誠意。

- ▶ 観光交流課 安田光樹
- ▶ 総務課 中村有希
- ▶ 福祉課 三野真穂
- ▶ 企画財政課 小池大介
- ▶ 企画財政課 井上朱里

地域の方々と対話をするうえでの意気込み

- ①建前ではなく、本音同士で対話できるような雰囲気作りを心掛けます。
- ②一人の地域人として参加することを心掛けたい。
- ③腰を低く、苦痛感を与えないように楽しい・やわらかい雰囲気に対話したい。
- ④“間”を怖がらず対話を楽しむ。積極的に話を聴く。
- ⑤未来志向で、誰もが楽しく意見を出し合えるサポートができるようにしたい。
- ⑥突然ではなく、じょじょに、共に。できる限り町民の皆さんと一緒に過ごして、ご意見を伺いたい。
- ⑦言いにくいことでも言ってください。何でも聴きます。そして、伝えます。

- ▶ 上下水道課 谷山邦宏
- ▶ 企画財政課 細見将吾
- ▶ 建設課 徳澤千夏
- ▶ 石川保育所 松本和美
- ▶ 保健課 荒木春菜
- ▶ 住民環境課 上田春香
- ▶ 総務課 田中栄輔

わたしはこんな総合計画をつくりたい

- ①多くの方の想いがつまった愛着の持てる計画。人とのつながりが生まれるような計画。
- ②このアイデアは私が出して実現したと自慢できる町民が多く存在する総合計画。
- ③若者が主体となる総合計画。町全体の合言葉になるような総合計画。
- ④皆で目指す未来を多くの人と共有できるように分かりやすい記述、内容の総合計画。
- ⑤それぞれの見方から町を豊かにできるよう、各世代の熱量が等しい総合計画。
- ⑥30年後の住民が見たときに、30年前にこんなに真剣に町の未来について考えていたんだと感じられる計画。
- ⑦住民の皆さんが自分達で作ったと思え、まちづくりをやっていると思ってもらえる計画。

- ▶ 議会事務局 由利景子
- ▶ 保健課 秦 弘記
- ▶ 観光交流課 糸井慎太郎
- ▶ 子育て応援課 藤井 彩
- ▶ CATVセンター 西原康平
- ▶ 企画財政課 永井大地
- ▶ 企画財政課 小谷貴儀

わたしにとっての与謝野“愛”

- ①次世代の人につなぐこと。
- ②生まれ育った地域、お世話になった人たちへの恩返し。
- ③生まれ育った与謝野町で生活すること。
- ④町の好きなどを大切にすること。思いやりの連鎖が町を作ると 생각합니다。
- ⑤与謝野町が好きだということ。他の人に与謝野町の魅力や良いところを自信持って言えること。
- ⑥与謝野町に住んでいる「人」との繋がりを大事にすること。
- ⑦与謝野町に住む子どもたちが、与謝野町のことを好きになり愛着を持つようにすること。

- ▶ 福祉課 糸井健博
- ▶ 社会教育課 井崎洋之
- ▶ 税務課 小谷 文
- ▶ 子育て応援課 安達希美
- ▶ 住民環境課 松井陽一
- ▶ 上下水道課 井戸本大輔
- ▶ 加悦保育園 森 智美



REPORT 職員ワーキングの動き (インタビュー記事4面に掲載)

CM撮影をする職員ワーキングチーム

四季折々の雄大な姿を見せる大江山連峰、爽り豊かな大地広がる加悦谷平野、穏やかに波打つ阿蘇海を背景にCM撮影をする職員ワーキングチーム、CMは4パターンあります。

「みんなでつくる総合計画」CM放送中

「住民参画×職員参画」による総合計画策定が動き始めます。これからは、その動きや様子を“よさのみらい新聞”や“KYT”で皆さんにお知らせしていきますので、ぜひ注目ください。ただ今、総合計画策定ワーキングチームが制作したCMを放送中です。

インタビュー研修

5月12日(金)、野田川庁舎研修室でインタビュー研修を実施しました。岩屋在住の坂根さんと渡邊さんをゲストにお迎えし、総合計画策定ワーキングチーム職員が聞き手となり、仕事や活動について、与謝野町の課題とは何か？役場職員に求める人材とは？など、お

二人の視点でのお話を伺いました。地域に根差して暮らしている人ならではの話の数々に、この場に居合わせた者同士の距離感が縮まりました。

「熱意のある人たちと話していると、自然とアイデアが湧いてくる」
「同じ地域でよく顔を合わせているが、ここまで深い話を聞いたのは初めて」

これは、インタビュー後のフリートークの中で出された感想です。①聞く人と答える人が同じ熱量を持っていれば楽しい②町づくりや自分の業務に活かすという「紐付け」を意識すれば、その人の想いを膨らませつつ、町の施策に反映することができる③自分なりの想い、答えを持っておけば、質問にも対応でき、同じ目線で語り合える④雑談、余白の時間も大切であることを共有しました。

今後、多くの方々から町に対する想いを集め、みんなで語り合うという作業に入っていきます。自分だからこそ聞ける問いが必ずあり、自分にしか聞けない問いも必ずあると信じ、そして、集めた想いが強いものであればあるほど、2040年の意欲と活力に満ち溢れた与謝野町につながっていくことを信じて取り組んでいきます。

最後に、突然のお願いにも関わらず、快諾の上、ご協力をいただいたお二人に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。